

事業概要(1/2) 【能美スマートインクルーシブシティ構築事業】

～デジタル技術と市民力の融合による誰もが孤立せずに安心して暮らし続けることができるまちづくり～

実施地域	石川県能美市	事業費	99,000千円
実施主体	石川県能美市		
事業概要	能美市の強みである市民力(他者とのつながり・貢献)とデジタル技術の融合により、移動が少なく、誰もが孤立せず、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるスマートインクルーシブシティの実現を目指す。能美市は東西に長く、海から中山間地まで地理的に多様で、交通インフラや買い物等の生活基盤が整いにくい状況にある。子育て世帯をはじめ、高齢者、障がい者、外国人、ひきこもり、中山間地生活者などは、移動が困難でかつ孤立・無縁のリスクが高く、世代・属性を問わず地域の課題である。医療・介護・福祉の共通プラットフォームの構築、データ共有・活用などにより遠隔医療・在宅見守りシステムを構築し、デジタルリテラシーが低い方も利用可能な5Gなどインフラ環境を地域拠点(公民館等)に併せて整備し、地域福祉の場やボランティア等と連携しながら、個別能力に応じて、物流、人流の変革による子育て支援、買い物支援、移動支援など総合的に利用できる最適化された総合生活支援サービスの創出を図る。		

取組内容

【はじめに】

子育て世帯等何らかの生活のしづらさを抱え地域とのつながりが必要な人々が官民連携による利便性の高い医療・介護・生活支援のサービスを受用でき、地域コミュニティの一員として安心して生活を送ることができるようにするために、行政と民間事業者との役割やサービス提供のあり方、その際どのような情報項目を共有すべきかを整理した。さらに、個別の情報項目がどのように縦割り・サイロ化して管理されているのか実態調査を行い、5Gインフラを典型とするデジタル技術活用の検討・整理を行った。

【令和4年度】

①医療介護情報連携システムの構築…多職種・多機関の共通プラットフォームを開発し、多職種・多機関の事務効率化とケアの質の向上を図る。

②福祉見守りあんしんマップ(及び避難行動要支援者名簿)の電子化…①と連携するシステムにより、地域の見守りが必要な人(障がい者、高齢独居世帯など)の生活情報等情報鮮度の高いデータベースの構築と救急搬送との連動、地域防災への活用、情報共有を行う。

また、民生委員・児童委員、医療介護専門職等の役割や権限を見直し、生活支援・在宅支援を共通プラットフォーム活用による総合生活支援サービスの検討を行う。

【令和5年度予定】

・③遠隔医療やIoTを活用した在宅見守りシステムを構築する。

・総合生活支援サービスについて、概念検証を行う。

【令和6年度予定】

・①②③のシステムを活用し、在宅療養者のみならず、子育て世帯、高齢者、障がい者、外国人、ひきこもり、中山間地生活者等、孤立・無縁になりがちな方も在宅に必要なサービスを受けられるようにする。また、地域拠点(公民館等)に5Gなど高速通信環境を整備することで、デジタルリテラシーが低い高齢者等も新たなサービスの恩恵を受けることができる。さらに、介護予防事業や地域福祉の場と遠隔医療や生活相談、買い物支援等の組み合わせなど、サービスの効率化と統合、連携等により、地域コミュニティや人のつながりが促進される。オンラインとオフラインの両面で多層的なサービスの組み合わせを行うことで、個別ニーズにきめ細かく対応できる、能美市型の生活支援サービスを構築しスマートインクルーシブシティの実現を目指す。

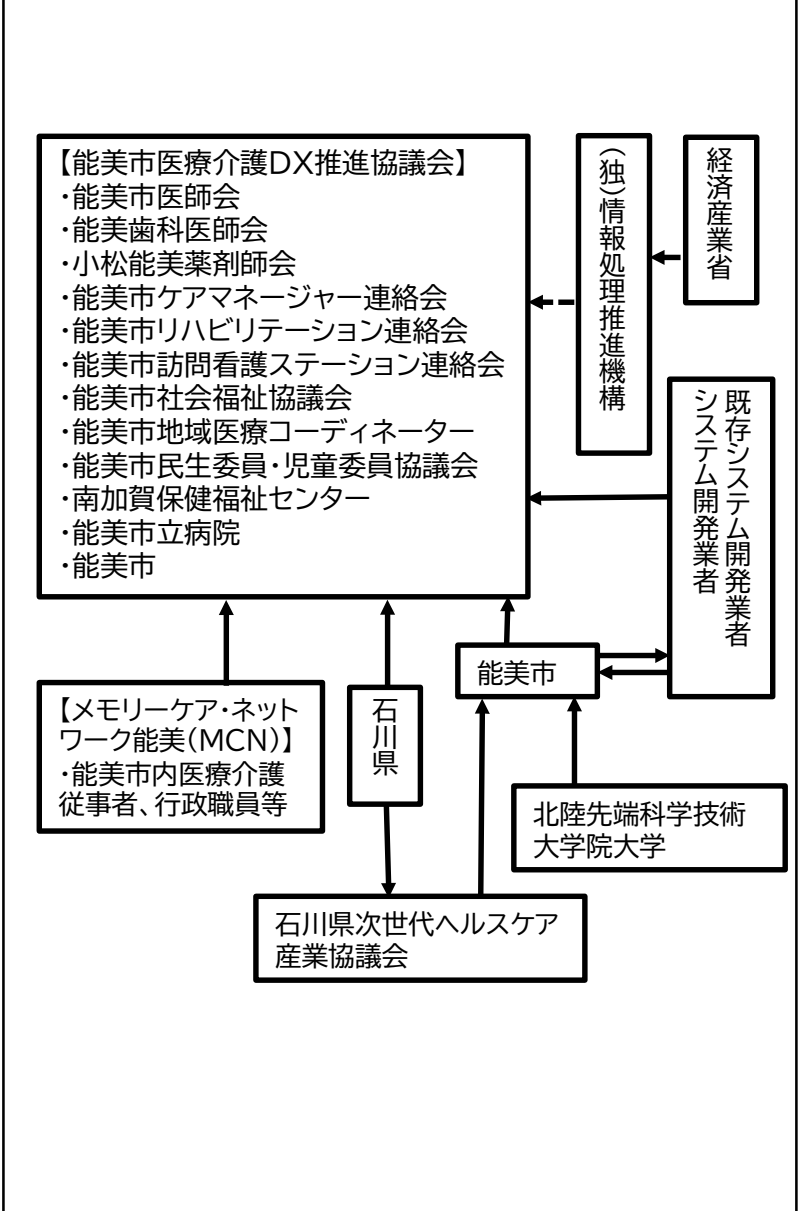
～多層的なサービスの組み合わせで個別最適化した能美市型生活支援サービスの構築～



事業概要(2/2)【能美スマートインクルーシブシティ構築事業】

～デジタル技術と市民力の融合による誰もが孤立せずに安心して暮らし続けることができるまちづくり～

実施体制図



システム構成図

